

2017年(平成29年)3月開催 新しいキネステティック認定セミナー・特別企画のご案内

各位

向春の候、時下ますますご清祥の段、お慶び申し上げます。

この度、世界最大規模の非営利団体ヨーロッパ・キネステティック協会より講師が来日し、日本初の新しいキネステティック認定セミナーおよび特別企画を開催する運びとなりました。キネステティックは患者や障がい者や利用者のみならず、相互作用をとる看護職者、その他医療者、介護者らの感覚やコミュニケーション、モビリゼーションの支援に包括的に貢献し、感覚の促進と意識の覚醒、尊厳あるコミュニケーションの実現、体位変換や移動移送などをはじめとする日常の活動性や可動性を維持促進し、身体機能の維持向上、痛みの軽減をはじめとする健康に役立っていくことが報告されています。キネステティックを通して、人と人との相互作用の本質を理解し、自分と相手のいのちをどのように扱っていくのかについても大きな気づきを得ることができるとでしょう。現在、国内をみても最上級レベルの海外のキネステティックトレーナーから直接指導を受ける機会はほとんどなく、今回の講師の来日は大変貴重な機会となっています。最新のアップデートされた専門的知識と技術に触れることができ、世界最大級のキネステティック団体のかかわる認定証を取得することも可能です。キネステティック最新の情報・理論理解・技術に直接触れ、高い専門的知識と技術を身につけ、ご自身の身近なクライアントや学習者の皆様のいのちのケアに少しでも貢献していただけたら幸いです。会場で皆様にお会いできることを楽しみに、ご参加を心よりお待ちしております。

(主催:ワールドキネステティック事業 後援:NPO法人ケア・コンピタンス協会)

【セミナー内容】

2017年3月22日(水)、23日(木) 9:00~17:00

キネステティック認定セミナー基礎・入門コースレベル1(平日コース)

2017年3月25日(土)、26日(日) 9:00~17:00

キネステティック認定セミナー基礎・入門コースレベル1(土日コース)

2017年3月21日(火)キネステティック特別企画(1) 18:00~20:30

講義演習「コミュニケーションの真実」&キネステティック・イブニングセミナー

2017年3月24日(金)キネステティック特別企画(2) 18:00~20:30

講義演習「セラピストマインド・ケアギバーマインド 自己と相手のバランス」&キネステティック・イブニングセミナー)

【申込 & WEB】

申込は先着順
席がなくなり次第
受付終了



QRコードを読み込むとセミナー詳細Webと申込フォームが表示されます

<http://www.carecompetence.org/>

【講師紹介】

ステファン・クノーベル先生

非営利団体ヨーロッパ・キネステティック協会
スイス支部・キネステティック上級トレーナー
設立時から協会全体をまとめている最高
幹部。キネステティックトレーナーを何千人も
輩出してきた指導者の指導者。
今回、記念すべき初来日。



只浦 寛子先生

国際医療福祉大学大学院
教授、博士(医学)
東北大学医学系研究科
運動学分野非常勤講師
前ヴィッテン/ヘアデッケ大学
客員上級研究員(ドイツ)



【会場】 都内中心部(東京都港区)
参加確定した方に詳細をご案内いたします。

【お問合せ先】

ワールドキネステティック事業
NPO法人ケア・コンピタンス協会
E-mail: info@carecompetence.org



QRコードを読み込むと問合せフォーム
が表示されます

海外メッセージ

—— ドイツ看護協会・会長からメッセージ ——

” 患者とともに新しい方法を試す勇気を持つ皆さんに
心からのエールを送りたいと思います！ ”



クリステル・ビーンシュタイン教授

ドイツ看護協会・会長

ヴィッテン/ヘアデッケ大学看護学部長（ドイツ）

人間に可能な新しい動きを知ることは、とくにダンスや舞踏を通じて可能となりました。身体機能に障害を持つ人びとのための支援コンセプトは、ドイツでは何十年もの間、工場での作業に似た、とりわけ家屋の建築や重機に必要な重量物の運搬操作とさほど異なるものではありませんでした。

人間をリフトで空中に持ち上げたり、二人でベッドから起き上がらせて車イスに移したり、といったことが、どこでも普通の職業的介助者の訓練内容だったのです。フランク・ハッチとレニー・マイエッタの二人が開発したキネステイクが、介助にまったく新しいアプローチを持ち込みます。このアプローチは、ドイツ語圏で生じつつあった新しい介護理論と足並みを揃えていました。ここで重視されたのは、患者自身の能力を伸ばすこと、現在持っている能力を見極め、その人に可能な動きを協力して形作ることでした。

ある動作を、できるだけだ一人の介助者と一人の患者とが協力して実行すること、これを出発点とするだけで、それまで当たり前だった多くの動作が疑問とされ、新しい可能性が開かれたのです。

最初のトレーナー育成に参加を許され、介助者が創造性を日々伸ばしていく姿を体験できたのは、私にとって名誉であり、また喜びでもありました。

患者の生活をよりシンプルかつ豊かにするこのコンセプトを導入し、患者とともに新しい方法を試す勇気を持つ皆さんに心からのエールを送りたいと思います。

Copyright (C) 序言「キネステイク入門」マーレン・アスムセン著
只浦寛子監訳（東京中央出版）2015

ドイツ看護学領域で最も著名な科学者からのメッセージ

”日本のヘルスケア実践にキネステイクが紹介されたことに、
心からお祝いを申し上げます！”



サビーネ・バトロメイチック教授

ヴィッテン/ヘアデッケ大学看護研究科長（ドイツ）

日本のヘルスケア実践にキネステイクが紹介されたことに、心からお祝いを申し上げます！キネステイクは、ヨーロッパの看護において、たとえば健康障害のために動けない人々をサポートするために応用する概念としてもとてもよく知られています。キネステイクは、赤ちゃんから老人まであらゆる年齢の人々の動きを支援するコンセプトであるだけでなく、動きを学ぶことそのものでもあります。また、キネステイクを応用する医療従事者の身体的負担を軽減するコンセプトでもあります。モビリティとはセルフケアの最も重要な基本的事項の1つであるため、キネステイクはあらゆるヘルスケアの場面において用いてゆく必要があります。残念ながらキネステイクの有効性や効率性に関する研究は多くはありません。私は、ドイツとオーストリアのいくつかの調査で、老人施設等におけるキネステイクの有効性について、只浦寛子先生の国際研究プロジェクトの相談にのり、ともに仕事をする機会を得ました。日本でのプロモーションを期待する、このキネステイク分野ではさらに多くの研究が必要です。そうはいながらも、キネステイクは、異なる国々のさまざまな臨床における、主観的経験に関する膨大な量の圧倒的な成果をもっています。キネステイクは、他のモビリティの概念と同様に、日常の看護の中にそれを統合するためにも、（ヨーロッパのように看護教科書に掲載され、学校や大学で基本を教える）一般的な看護教育の一部であるべきです。私は、日本の医療専門家がキネステイクを導入することによって、ヘルスケア実践において大きな成功を収めることを願っています。

All Copyright (C) Nonprofit Organization Association of Care Competence